

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203386		
法人名	社会福祉法人 郁青会		
事業所名	グループホーム サンバード茶屋町 (こすもす)		
所在地	岡山県倉敷市茶屋町早沖424-15		
自己評価作成日	令和3年 10月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370203386-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さんそれぞれの残存能力や、今現在出来ることを把握し、過剰介護にならないように努めている。立位が可能な方には食器洗いをしていただき、立位不安定でも何かしら作業は可能な方にはタオルたたみやお膳拭き等、座ってできる作業をお願いしてホーム内で何かの役割を担っていただけるように支援している。またレクについても皆さんに声掛けは行うが強制ではなく、それぞれが好きなことを楽しめる時間を確保できるように、日頃の様子を観察したりアセスメントにて好きなことを探り、出来ることを提供している。新型コロナウイルスにより面会中止が続いているが、毎月の請求書と一緒に日頃の写真を掲載した便りを送り、ご家族に近況をお伝えしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いを汲んだ支援に努めている。他の利用者が、滴一滴を書き写しているのを見て、やり始めた利用者がいる。集中すると涎が出てしまい、その事を他の利用者から指摘されるので、後見人に机と椅子の購入を依頼し、居室でのんびり書いてもらっている。文字が小さくて見えないと言われれば、拡大コピーをしてあげる。また刺し子が好きな利用者は、どこから縫えばよいのか分からなくなってしまった。職員が簡単な図案を考え、不安なく縫えるよう工夫した。図柄がさみしくないよう、縫い終わればその都度図案を追加する等の工夫をし、少しでも楽しみが続くようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(こすもす)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングなど、職員の話し合う場で理念を思い起こす事で、日々のケアを振り返り統一を図るようにしている。	理念に掲げる「認知症になっても、穏やかで安心できる暮らし」の文言は伝えていないが、事業所の根本的な考え方は共有し実践に努めている。利用者の行動を見ながら判断し声掛けを行い、安心できる暮らしの実現を心掛けている。	事業所の根本的な考え方については伝えているが、理念の文言を知らない職員もいる。新しく入社した職員も居るので、理念について再度話し合う場を設けて欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供会の廃品回収に協力、実習生の受け入れ(ヘルパー・高校生など)を行っている。新型コロナウイルス感染症が落ち着けば、夏ポラ受け入れも再開予定。	子供会から廃品回収のお知らせが届くので、利用者と一緒に新聞紙を縛り協力をしている。高校の実習生を受け入れ、入浴介助などを一緒に行う。いつもは洗髪を嫌がる利用者も喜んで洗ってくれる。近所の人が、柿を親子で持って来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れ、職場体験、ボランティアとして中学生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ここ1年間は新型コロナ蔓延防止の為開催出来ていないが、参加メンバーにレジュメを送り、メールなどで意見をいただいている。	現在はコロナ禍のため、運営推進会議は開催できていない。入居者の様子、行事報告、職員の入退社等を書面で報告をしている。他のグループホーム管理者が委員の一人なので、コロナ禍の対応などをメールで問い合わせをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの職員の推進会議参加により、現状報告が出来たり、情報をもたらしたりして参考にしている。	地域包括支援センターが主催する認知症カフェの開催準備会議にも参加し、協力関係を築いている。地域包括支援センターの職員から利用者の紹介があり、その人の対応の件でも相談に乗ってもらえる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中も玄関を施錠しているが、玄関ドア近くにセンサーを設置し入居者さんの行動を把握し、外に出たい訴えがあれば一緒に出るようにしている。	帰宅願望の利用者には、行動を制止せず、本人の様子を見ながら外へ出てみる等、気分転換を図っている。行動は抑制せず、体操してもらったり洗濯物を畳んだりする等、穏やかに過ごせる工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待はないものの、“ことばの虐待・拘束に気を付けよう”とミーティングで話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人についての勉強会はしていないが、制度を利用している方の後見人については職員にも周知してもらっている。後見人との連絡も密にとり、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要説明事項にて説明し、理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を目につきやすく投函しやすい場所に設置している。ご家族への連絡時に何か意見がないか確認し、要望があればその都度対応している。	面会時や電話で要望を確認している。薬局の支払いを預り金から行っていたが、引き落としにして欲しいとの希望があった為、薬局と対応中である。滴一滴を居室で落ち着いて書きたいという利用者には、後見人に机と椅子の購入を依頼した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで各々の意見・提案を聞く機会を設けている。また、そこで挙げた意見を随時管理者から上に進めていく。	チームワークを大切にしたいと考え、失敗した場合は他の職員がフォローする等協力関係を築けるように努めている。職員からも「管理者は失敗したことを責めず、良い事を褒めてくれるので発言がしやすい。」と教えてもらった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表や自己評価表を用いて行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に合わせた外部研修への参加を促す。研修案内の情報を伝え、個人的に研修に参加することも促す。研修内容は報告書を回覧し、職員全員にフィードバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの推進会議に参加してもらったり、他ホームの管理者に参加してもらっている。法人開催の勉強会へ参加し、向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のケアマネからの情報を取り入れ、フェースシートで情報を提示し把握に努め、不安・困っていることを理解しようと工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホームを見学してもらい、雰囲気・環境等を理解して頂き、本人・家族の要望や不安等の想いを聞き、ホームの方針・どのような対応が出来るかを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・面談時に家族だけでなく本人にも来所してもらったり、入居までに時間がある場合は遊びに来てもらったりしている。ケアマネから情報収集して方策を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や生活のあらゆる場面で、入居者それぞれの出来ることをお願いしたり一緒にいたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回発行している便りや電話・面会時等に報告・相談し、本人を支えていく為の協力関係を築いている。本人から家族に連絡したいと要望ある時には電話を繋ぐまでの支援をすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在面会は不可能だが、電話にて古い友人とのやりとりを継続してもらっている例がある。	10月から面会が再開となる事が9月に決定したが、葉書で案内を行った。なかなか面会の連絡が入らなかったため、再度毎月のたよりに面会再開の案内をし、会いに来てくれる家族が増えた。キーパーソンが変更しても、代わらずたよりを郵送していた県外の娘もこのたよりに見て、会いに来てくれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の気持ちに合わせ、無理強いしない程度にフロアーに誘ったり、一緒に作業(工作やお手伝い)出来るよう支援している。利用者同士でトラブルが起きないように早目に職員が間に入り対応する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入所したり、長期入院で退居されても面会や見舞いに行き、今後の事について特養等への相談を持ちかけたり、パンフレット等を届けたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	半期に一度のアセスメント時に本人の意向確認を担当職員が行っている。また、聞いてほしいと希望があったり話したそうな様子のある時はいつでも話を聞くように努めている。	普段の様子から思いを汲むようにしている。例えば、塗り絵をしている他の利用者の姿をじっと見つめていたら、「塗り絵をしませんか。」と声を掛け、塗り絵を持っていく。他の利用者と一緒に居ることが苦痛な場合は、好きなことが居室で行えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	問いかけに率直に話してくださる方もいれば、頑なに拒否され話さない方もいる。本人から情報が得られない時は家族や前サービスの職員より情報提供を受けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録には本人の言葉や感動・驚き等の感情も見える記述をするよう努めている。体調などの特変記録を記入し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン見直し前には本人・家族にここで生活していく上での希望の確認を行う。また、面会時にも近況を報告し、意向・思いを聞いて本人にはその都度対応している。	ケアプランチェック表に、介護計画に掲げるサービス内容を記載している。日中と夜間に実施できたかどうかを確認し、1ヶ月毎にモニタリングをしている。次回の更新の際は、職員に支援内容の変更箇所を赤字で記載してもらい、介護計画の参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を簡素化することで重要且つ情報を共有しなければならない事が一目で分かるようになっていく。要改善事項はケアプランにも反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の現状を家族に伝え、協力してもらえぬ事はお願いしている。出来るだけ本人のやりたい事が出来、行きたい場所に行けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、新型コロナの影響で開催が出来ていないが、地域包括支援センターが中心になって準備している認知症カフェに参加させていただき、入居者さんも一緒に参加できるように進めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診で医師に報告・相談する機会を設け、日常生活状況を細かく伝えている。状態に不安を感じた時は、バイタルデータを取り電話報告して指示を仰いだり受診したりして対応している。	入居時に、往診してもらえらる協力医を紹介している。ほぼ全員が夜間でも対応してくれる協力医へ変更している。精神科に通院していた利用者も居たが、職員の思いを汲んだ支援のお陰で状態が安定し、通う必要が無くなった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で、週1回看護師が健康チェックを行い、介護職との情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホームでの生活の様子や既往歴などを記載した介護添書を持参している。早い段階から見舞いに行き、病状を聞いたり、退院に向け情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より看取りについて宣告のあった家族に対しては、希望を聴きながら同意書を作成し、主治医・家族・職員の三者が共通の認識で最期のケアにあたるように話し合いをしている。	入居時に、重度化した場合について説明し、その際は家族の協力が必要ともお願いしている。看取り支援について不安がある職員もいたが、管理者がフォローをする事で、慣れた空間で終末期を過ごせる事の大切さを理解し、支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新入職者のある時期にマニュアルに添って指導を行っている。法人での研修も開催されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、入居者と一緒に避難訓練を行っている。火事だけでなく地震想定での訓練も行ってみた。消防の方に来てもらい訓練の様子の総評や消火器の使い方講座をしてもらうこともある。	避難訓練とは別に、火災報知設備の点検の際も機器の使用方法を復習している。新しく入社した職員に避難訓練の担当になってもらい、早めに経験を積んでもらっている。先日夜間想定で訓練を実施したが、別のユニットの利用者の状態が分からず、誘導に手間取った。	夜間に災害があった場合、互いのユニットの協力が必須である。そのためにも、行事の時は職員間の協力情報交換を図り、別のユニットの利用者の状況を把握しようと考えている。実現に期待を寄せる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時は個別浴を実施し、全て服を着て整え終えるまで次の人が入らないよう配慮している。トイレの場所が分からず毎回迷ってしまう方には張り紙で示し、さりげなく側に行き誘導する。	重ね着をする利用者には、動いたタイミングで「着替えませんか」と声を掛けている。利用者を家族だと思い込み、その利用者に執着して必要以上に関わり、嫌がられる事がある。家族ではないと伝えると不穏になるので、視界に入らない場所へ誤解された利用者を移動している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アセスメント時に本人の想いや希望などを聞き取り記録している。また、散歩には少人数で行き、コミュニケーションの場になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除や洗濯干し・たたみ、調理手伝い等、本人の意思に添って決めている。散歩やドライブ・クラフト作成等提示はするが決して無理強いはいないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪を行う。服装については自己決定出来る方は任せている。難しい方は本人に確認しながら一緒に決める。衣類の不足がある時には家族に依頼したり職員が買いに行くことがある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在配食サービス利用しているが、月に2～4日は職員がメニューを決めて調理している。誕生日にはご本人が食べたい物を手作りして提供することもある。	第2と第4の木曜日は手作りの日にしている。誕生日もその利用者の食べたい物を提供している。花見・秋祭り・クリスマス会は、3種の主食と6種類の副菜が入った弁当を手配し、利用者から喜ばれている。	コロナも落ち着いたので、夕食を手作りしようと検討している。実現に期待を寄せる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	把握が必要な方は食事・水分チェックを行い、不足しないよう一日を通して気を付けている。箸の進みが悪い時は声掛けしたり、出来るだけ食べてもらうよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のうがい、毎食後の口腔ケアを徹底している。特に食後は毎回必ず職員が歯磨きへ誘い、見守りや一部介助をし確実にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を確認しながら声掛けを行ったり、介助しながらパット更新したり、失敗の確認をさせてもらっている。	利用者がトイレを利用した際、声掛けをして了解を得てから支援をしている。援助を嫌がる利用者もいるので、アコーディオンカーテンで仕切られたトイレに誘導し、その隙間から見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況確認している。便秘傾向の方には毎朝牛乳提供。散歩や体操を行い、出来るだけ便秘薬に頼らない排便が出来るよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	順番が不公平にならないよう、順番を記録し定期的に一番風呂に入れるようにしている。	寒いからと入浴を嫌がる利用者は、一番最後に入浴してもらっている。まず湯船にゆっくり浸かってもらい、体の芯まで温まってから体を洗う。服を着てもらう際も、体が冷えないよう足浴をしている。順番を気にする利用者には、順番を記録し前回何番目に入ったかを伝えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるように日中の活動を促す。眠れないなどの訴えがあれば、側に寄り添い話を聞くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬については説明書に目を通し、副作用がある時には全職員に伝達している。服薬内容に変更があれば、随時連絡帳で全職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のやりたい事、出来る事を見出し、継続して行っていけるよう声掛けしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は外出が出来ていないが、新型コロナが落ち着けば誕生日には個別外出に出かけたり、買い物の希望があれば一緒に行く事も再開していきたい。	以前は利用者と一緒に買い物や外出に行っていたが、現在は外出を控えている。気分転換に敷地内を散歩している。花見に出かけられなかったので、数種類の桜を持ち込み、室内で花見を楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心や満足の為、少額の所持金を持ってもらえるよう家族と相談し支援している。外出時には事務所預かり金を個別の財布に用意し、会計時には職員見守りのもと、各自で支払いをしていただいていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけられるようにしている。電話を繋がる所まで職員が代理で行うこともある。希望者には年賀状の作成・送付支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けや皆が作成した作品を掲示している。行事やドライブなどで撮影した写真を掲示し、楽しんでもらっている。ホーム内を歩く方が他者から指摘されないように目隠しになる物を設置し対応している。	中庭に季節の花を植え四季を感じてもらっている。日中は刺し子などをする人もいるので、手元が見やすいよう明るくしているが、夕食後は廊下の電気のみを消している。高性能の加湿器を購入し、湿度の保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを設置し、テレビを皆で観たり談笑できるスペースになっている。デッキや玄関ポーチにはベンチを設置し、両ユニットで交流がもてるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の写真や習字等の作品、植物など本人の思うように飾ってもらう。自宅で使い慣れた親しんだ家具を持って来てもらい、一人でくつろげる空間を作れるようにしている。	ベッドの配置はだいたい決まっているが、エアコンの真下が嫌な場合は、位置を変えている。利用者が、家具等を活用しながら自らの力で居室の外まで出られるような配置の工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からない方には目印をしたり、トイレには紙の使用方法など張り紙をして分かるようにしている。フロアでは押し車や車いすを置く位置にも配慮し、転倒防止に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203386		
法人名	社会福祉法人 郁青会		
事業所名	グループホーム サンバード茶屋町 (さくら)		
所在地	岡山県倉敷市茶屋町早沖424-15		
自己評価作成日	令和3年 10月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370203386-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人を尊重した暮らしが出来るように、生活歴、思いや意向の把握、性格を踏まえた対応に努め、自分らしく生活していただくことをユニット理念に掲げ、利用者様を主としたケアに取り組んでいます。
 その中で結集して大きな力を生み出す「和」、個々の職員がパワーアップ(成長する・進歩する・強くなるなど)する「動」、この二つの力を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(さくら)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ、日々の介護をその理念に照らし合わせつつ、管理者・職員が常に情報を共有し日々の実践を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供会の廃品回収に協力、実習生の受け入れ(ヘルパー・高校生など)を行っている。新型コロナウイルス感染症が落ち着けば、夏ボラ受け入れも再開予定。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れ、職場体験、ボランティアとして中学生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ここ1年間は新型コロナ蔓延防止の為開催出来ていないが、参加メンバーにレジュメを送り、メールなどで意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの職員の推進会議参加により、現状報告が出来たり、情報をもたらしたりして参考にしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の意味を理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。夜間のみ施錠を行い安全・防犯に徹している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待はないものの、“ことばの虐待・拘束に気を付けよう”とミーティングで話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人についての勉強会はしていないが、制度を利用している方の後見人については職員にも周知してもらっている。後見人との連絡も密にとり、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要説明事項にて説明し、理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を目につきやすく投函しやすい場所に設置している。面会時には家族の話もしっかり聞くようにしたり、推進会議にも可能な家族には参加してもらっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行い、職員一人一人の意見や提案を聞き反映している。また、ストレスケアに十分に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表や自己評価表を用いて行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に合わせた外部研修への参加を促す。研修案内の情報を伝え、個人的に研修に参加することも促す。研修内容は報告書を回覧し、職員全員にフィードバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの推進会議に参加してもらったり、他ホームの管理者に参加してもらっている。法人開催の勉強会へ参加し、向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のケアマネからの情報を取り入れ、フェースシートで情報を提示し把握に努め、不安・困っていることを理解しようと工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホームを見学してもらい、雰囲気・環境等を理解して頂き、本人・家族の要望や不安等の想いを聞き、ホームの方針・どのような対応が出来るかを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・面談時に家族だけでなく本人にも来所してもらったり、入居までに時間がある場合は遊びに来てもらったりしている。ケアマネから情報収集して方策を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性や生活歴を大切にし、ご自分で出来ることは可能な限り本人にしたいだけ、出来ない事はサポートし共に寄り添って暮らしていける信頼関係作りに努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回発行している便りや電話・面会時等に報告・相談し、本人を支えていく為の協力関係を築いている。本人から家族に連絡したいと要望ある時には電話を繋ぐまでの支援をすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた家や地域へ個別外出したり、昔の同僚など訪問がある時は積極的に歓迎している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の間関係が円滑になるように職員が見守り、関わり合い支えあえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入所したり、長期入院で退居されても面会や見舞いに行き、今後の事について特養等への相談を持ちかけたり、パンフレット等を届けたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	半期に一度のアセスメント時に本人の意向確認を担当職員が行っている。また、聞いてほしいと希望があったり話したそうな様子のある時はいつでも話を聞くように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	問いかけに率直に話してくださる方もいれば、頑なに拒否され話さない方もいる。本人から情報が得られない時は家族や前サービスの職員より情報提供を受けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録には本人の言葉や感動・驚き等の感情も見える記述をするよう努めている。体調などの特変記録を記入し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン見直し前には本人・家族にここで生活していく上での希望の確認を行う。また、面会時にも近況を報告し、意向・思いを聞いて本人にはその都度対応してる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を簡素化することで重要且つ情報を共有しなければならない事が一目で分かるようになっている。要改善事項はケアプランにも反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行うにあたり、一人ひとりにあったサービスの提供を心掛け、マニュアルに束縛されず柔軟性をもって個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、新型コロナウイルスの影響で開催が出来ていないが、地域包括支援センターが中心になって準備している認知症カフェに参加させていただき、入居者さんも一緒に参加できるように進めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診で医師に報告・相談する機会を設け、日常生活状況を細かく伝えている。状態に不安を感じた時は、バイタルデータを取り電話報告して指示を仰いだり受診したりして対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で、週1回看護師が健康チェックを行い、介護職との情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホームでの生活の様子や既往歴などを記載した介護添書を持参している。早い段階から見舞いに行き、病状を聞いたり、退院に向け情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より看取りについて宣告のあった家族に対しては、希望を聴きながら同意書を作成し、主治医・家族・職員の三者が共通の認識で最期のケアにあたるように話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新入職者のある時期にマニュアルに添って指導を行っている。法人での研修も開催されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、入居者と一緒に避難訓練を行っている。火事だけでなく地震想定での訓練も行ってみた。消防の方に来てもらい訓練の様子の総評や消火器の使い方講座をしてもらうこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の性格など把握し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が気兼ねなく希望や思いを発言できるように働きかけ、自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調や気分を把握し、その日どのように過ごしたいか本人の希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪を行う。服装については自己決定出来る方は任せている。難しい方は本人に確認しながら一緒に決める。衣類の不足がある時には家族に依頼したり職員と一緒に買い物に行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在配食サービス利用しているが、月に2～4日は職員がメニューを決めて調理している。誕生日にはご本人が食べたい物を手作りして提供することもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	把握が必要な方は食事・水分チェックを行い、不足しないよう一日を通して気を付けている。食卓には職員も同席し、箸の進みが悪い時は声掛けしたり、出来るだけ食べてもらうよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時のうがい、毎食後の口腔ケアを徹底している。特に食後は毎回必ず職員が歯磨きへ誘い、見守りや一部介助をし確実にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を確認しながら声掛けを行った り、介助しながらパット更新したり、失敗の確認をさせてもらっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況確認している。毎朝ヨーグルトを提供したり牛乳提供。散歩や体操を行い、出来るだけ便秘薬に頼らない排便が出来るよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	順番が不公平にならないよう、週によって交代するよう組んでいる。男性と一緒に日に入浴したくない女性もおられる為、配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるように日中の活動を促す。眠れないなどの訴えがあれば、側に寄り添い話を聞くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬については説明書に目を通し、副作用がある時には全職員に伝達している。服薬内容に変更があれば、随時連絡帳で全職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った趣味支援を行っている。得意分野で個々の力を発揮していただき意欲向上に繋がればと考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は外出が出来ていないが、新型コロナが落ち着けば誕生日には個別外出に出かけたり、買い物の希望があれば一緒に行く事も再開していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心や満足の為、少額の所持金を持ってもらえるよう家族と相談し支援している。外出時には事務所預かり金を個別の財布に用意し、会計時には職員見守りのもと、各自で支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけられるようにしている。電話を繋がる所まで職員が代理で行うこともある。希望者には年賀状の作成・送付支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けや皆が作成した作品を掲示している。行事やドライブなどで撮影した写真を掲示し、楽しんでもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにはソファを設置し、テレビを皆で観たり談笑できるスペースになっている。デッキや玄関ポーチにはベンチを設置し、両ユニットで交流がもてるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の写真や習字等の作品、植物など本人の思うように飾ってもらう。自宅で使い慣れた親しんだ家具を持って来てもらい、一人でくつろげる空間を作れるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の安心・安全を心掛け、日時が分かるようにカレンダーや時計を複数配置し、自立した生活が出来るように環境作りを行っている。		